

令和6年10月28日

吉川福祉専門学校  
校長 久田 晴實

## 令和6年度 第1回教育課程編成委員会報告の公表について

教育課程編成委員会による本校の「第1回教育課程編成委員会報告」を公表します。

### 1 委員名簿

委員長：久田晴實委員 副委員長：鯉沼聡美委員

#### (1) 外部委員

阿部 慎也	グループホーム サンパティオ 施設長
小潟 竜一	特別養護老人ホーム吉川平成園 事務課長
山口 剛介	吉川市健康長寿部長寿支援課 課長
與儀 忍	高齢者福祉施設やしお苑 副施設長

(五十音順)

#### (2) 学校側委員

久田 晴實	吉川福祉専門学校長
鯉沼 聡美	同 教務主任
山本 晃市	同 事務長
田村 貴章	同 事務長代理

### 2 教育課程編成委員会の開催状況

日時：令和6年7月24日（水）10時40分～11時40分

会場：吉川福祉専門学校 演習室

参加委員：上記外部委員4名、学校側委員4名

### 3 委員会次第

開会

(1) 委嘱状交付

(2) 委員の紹介

(3) 校長挨拶

(4) 委員長選出

(5) 報告

① 令和6年度教育課程編成方針及び特色について

(5) 協議

① 今後の教育課程編成に向けて

② 授業内容等の改善及び工夫について

(6) その他

① 今後の予定

② 事務連絡等

閉会

### 4 第1回委員会議事要録

別紙のとおり

以上

令和6年度 吉川福祉専門学校 第1回教育課程編成委員会議事要録

令和6年10月28日

- 1 委嘱状の交付 省略
- 2 委員の紹介 省略
- 3 校長挨拶（学校概要の説明） 省略
- 4 委員長選出 久田校長
- 5 報告事項
  - (1) 令和6年度教育課程編成方針及び特色について
- 6 協議事項
  - (1) 今後の教育課程編成に向けて
  - (2) 授業の内容等の改善及び工夫について

外部委員及び学校側委員からの提言と質問事項等

(学校) 令和6年度よりシラバスの内容を改定した。主な改定ポイントは、評価方法についてで、学生に理解してもらいやすくしよう（根拠のある見える化をしていこう）という趣旨で実施した。参考資料のP12「介護の基本II」を例に上げると、評価項目は「定期試験60%」、「レポート課題20%」、「小テスト20%」となっている。学生に対して評価方法がしっかりと数字で見えるように見直した。また、昨年度よりシラバスの内容を簡素化し、何を学ばなければいけないかを学生に理解しやすいように改定した。

(学校) 評価については、定期試験イコール評価というイメージが強いが、定期試験で60点を切ったからといって、すぐに再試験になるということではない。定期試験や小テスト、レポート課題等を総合的に加味したうえで最終的な評価となる。

(委員) 評価方法が見える化することは、とても良い取り組みだと思う。各科目とも定期試験の結果のみで評価されるものと思っていた。小テストなどもコンスタントに実施している科目も多く、良い取り組みだと思う。

- (委員) シラバスの内容を簡素化(文字数を減らした)したことで、授業のねらいや到達目標がイメージしやすくなったのではないか。学生にとっては、次に何をやらなければいけないか、また過去にどんなことを学んだのかなどの理解もしやすく、それが習慣づいていくと学習効果も上がると思われる。
- (委員) 評価内容の項目について、様々な取り組みの中で、総合的な観点で評価していくことはいいことだと思う。
- (委員) シラバスを見てみて、とても見やすく体系化されていると感じた。私たちは現場に入っているいろいろ調べて都度判断する毎日なので、こうやって体系的に勉強してこういう仕事につける方はうらやましいと感じる。
- (学校) 今回のシラバスの改定は、見える化をテーマに、学生も私たちも使いやすくしてこうという目的で取り組んだ。また、作品課題や授業参加態度などの評価項目について、何をもちょう評価をするのかということ、ルーブリックのような形で見える化をし、学生にどう示していくかが、今後の課題である。
- (学校) 本校では、現在介護実習以外の科目数が36科目あり、今年度は専任教員4名と非常勤講師14名で運営している。専修学校の設置基準では専任教員の数に決まりはあるが、非常勤講師の数に決まりはない。なるべく多くの科目を専任教員が受け持つことで人件費を抑えることができるが、同じ教員ばかりが授業を受け持つことのメリットとデメリットがある。また、ここ数年、非常勤講師の人数を少しずつ増やしている。その理由の一つには、教員の高齢化が進んでいることがあげられる。中長期的な学校運営の観点からも、今後も注力していきたい。なお、本校の科目数(36科目)は、介護福祉士養成の設置基準で定められている科目数よりも少し多く設定している。次年度に向け、教育課程の見直しも検討している。
- (委員) 設置基準よりも多く授業科目を設定されていることは、学校のブランドにもなり、他校との差別化にもなると思う。
- (学校) 埼玉県内の介護福祉士養成校の学生募集の状況は、年々留学生の入学者の割合を増やす傾向にある。40名(学校によっては80名)定員で、定員いっぱい学生が集まっている学校は少なく、留学生を2桁以上受け入れている所も多い。本校の場合、令和6年度の新入生は25名で、そのうち4名が留学生であった。定員(40名)確保が理想だが、毎年最低でも30名程度の新生は確保したいと思っている。本校でも、今後留学生の受け入れ人数を増やしていく可能性はあるが、留学生にとっても日本人が多い中で学習できる環境を引き続き整えていきたいと考えている。
- (委員) 専門学校で学費や職業訓練生の仕組みが気になり調べてみた。補助金制度などを上手に活用できるケースとそうでないケースがあり、一般的な入学生(自分で学費を負担)とハローワーク経由の入学生(学費はハローワークが負担)とで、経費負担にずいぶん差があると感じた。改めて、国の政策や現場の協力というところのギャップがあることを感じた。

(委員) 毎年、学校のパンフレットがガラッと変わっていて良いと思う。ただ、担当される教職員の方は大変だと思うが、学校をアピールするためにもパンフレットは重要だと思うので、継続して作成してもらいたい。また、パンフレットに掲載される学生のモチベーションにも繋がると思っている。

(委員) オールケアジャパンコンテストの動画を見せていただき、ケアをする側(介助者役)だけでなく、ケアを受ける側(介護者役)も勉強をしなければ、介護者役は務まらないなと感じた。